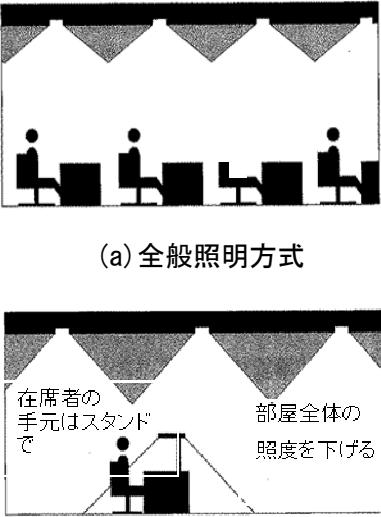


対策名	タスク・アンビエント照明
対策タイプ	運用改善
対象業種	共通要素設備
対象工程等	照明
対象技術の概要	<p>【目的】 視作業域は、主にタスク照明によって必要な照度を確保し、視作業域以外は、アンビエント照明によって視作業域に比べて照度の低い照明を行うことにより、省エネすることを目的とする。</p> <p>【概要】 タスクとは、「仕事、課業、課題・・・」の意味で場所、エリアの意味を含んでいないが、アンビエントは、「周囲を取り巻く」の意味で、「タスクの周囲」の意味で使われている。</p> <p>タスク・アンビエント照明の概念を図1に示す。(a)が、全般照明方式、(b)がタスク・アンビエント照明方式である。</p>  <p>(a) 全般照明方式</p> <p>(b) タスク・アンビエント照明方式</p> <p>図1. 全般照明方式とタスク・アンビエント照明方式</p> <p>【実施手順】 タスク照明に対して、どれくらいのアンビエント照明による照度が良いかという調査結果を、図2に示す。図で、評価区分「最適」(好ましい)、「下限」(これ以下では暗すぎる)です。「最適」とは「最適の累積出現率 50%」、「下限」とは「下限の累積出現率 50%」を採用した。評価区分「節減」においては、快適性と省エネルギー性の両面を調和させるために設けた評価区分で評価区分「下限」の累積出現率 90%の値である。 「最適」と「節減」との間が大多数の人が満足する照度となる。</p>

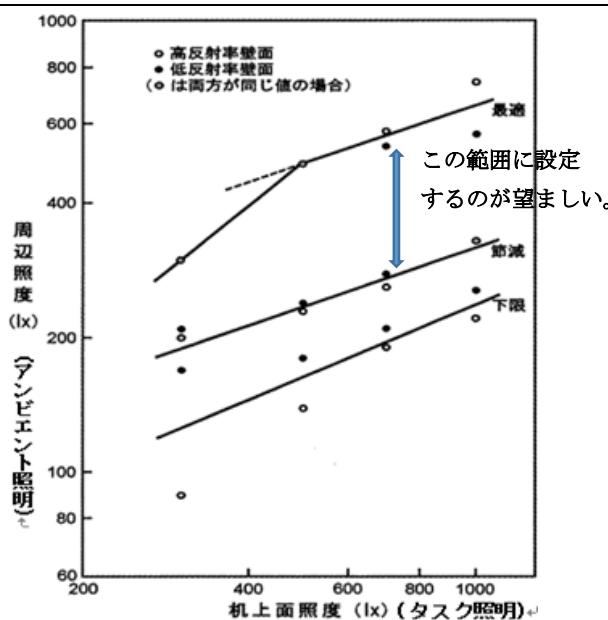


図 2 机上面照度に対する好ましい周辺(アンビエント)照度

表 1 机上面照度の対する周辺(アンビエント)照度の推

周辺照度 (lx)	評 価 区 分		
	最 適 ^{*1}	節 減 ^{*2}	下 限 ^{*1}
500	500	230	165
750	580	270	200
1000	670	320	240

*1 調整値の累積出現率50%値

*2 下限値の累積出現率90%値

図 2 から主要なポイントを読み取ると表 1 となり、例えば、机上面が 750Lx の通常の事務所では、アンビエント領域では、580~270Lx にすれば大多数の人が満足するということを示している。なお、基準面の照度は、JISZ9125 による。

実施上の留意点

図 3 の左から順に、スタンド型、什器取付け型、吊り下げ型、天井取付け型などがある。

省エネ対策として建物の完成後に実施するには、スタンド型で JISC8112 AA 型準拠の器具(半径 30cm の円周 120° で 500Lx 以上)が望ましい。なお、LED 照明においては、多重影対策が施されていることが必要である。



図3 各種のタスク向け照明器具
タスク・アンビエント照明普及促進委員会報告書